

【水彩画クラブ27】卒業後5年目の活動 2017年4月

◇第92回活動:2017年4月10日(月) 午後1時から スエック206室

今日の活動は、上部の空と木々群を描いて仕上げていきます。

1. 空を塗る準備をします。

① 空色をつくる。

淡い青色+深い青色を混色し、薄めに水溶きしておく。

② 雪原に樹の色が滲らないように、境目に仕切り線のようにマスキングペンで描くようにマスキングしていく。

③ 雪原との設置面に見える山嶺の色をつくる。

暗青色+紫色の混色に、前項①の空色を混ぜる。

④ 右側にある大木の、上部に見える陽の光で白くなっているところと、幹の所々に見える雪塊にマスキングを施す。

2. 空色を塗っていく。

① 空の部分全体にハケ筆で均一に水を塗り広げていく。(余分な水分はティッシュで拭き取っておく)

② 同じハケ筆につくった空色を含ませ、水平に、或いは縦にハケ筆を走らせて、スジが出来ないように注意しながら塗っていく。

③ 塗った空色が乾かないうちに、右側大木の陽が当たって白く見える部分に、羽管筆で走らせて空色を拭き取り、直ぐにティッシュで筆先から空色を吸い取る。何回か繰り返して、陽当たりの白い部分を出していく。

3. 塗った空色をドライヤーで十分に乾かしてから設置面の小さな山嶺を、4号小筆に前項1-③の色を含ませて、課題写真を見ながら描いていく。

4. 木々の色を塗っていく。

① 樹の色をつくる。

a) ブルー系 暗青色(多目)+焦げ茶色の混色

b) ブラウン系 暗青色+焦げ茶色(多目)の混色

c) バイオレット系 暗青色+焦げ茶色(多目)の混色に、紫色を混ぜる

d) グリーン系 暗青色(多目)+焦げ茶色の混色に、黄色を混ぜる

② 木々の描き方は、奥にある木々は薄めのブルー系で描き、手前にある木々はブラウン系で描いていく。ライナー小筆に樹の色をとり、課題写真を見ながら木の形描いていく。

③ 一番手前にある太めの樹木は、予め小筆に水を含ませて描くように塗っていく。

その後、小筆で樹の各色をグリザイユ技法で所々おいていき、滲ませていく。

④ 左側に密集する木々群の中にハケ筆で水をサーッと塗り、取っ手の付いた青い網の中ほどにa色かd色を小筆でチョンチョンとおき、水を塗ったところの上にその網をかざし、色をおいた部分を大筆の軸でポンポンと叩いて色を紙面に飛ばしていく。飛び散った色が紙面で滲み、密集している木々群をかもし出す。

⑤ 同じ青い網の中程にオレンジ色をチョンチョンとおき、予め水を塗った中央部の木の枝群にかざし、大筆の軸で網を叩いて色を紙面に飛ばす。飛び散ったオレンジが滲み、枝に残る枯れ葉を表現する。

5. 右側大木を塗っていく。

① 前項4-①のb色を濃い目につくり、ドライブラシ技法で大木の樹肌を表現するように刷り込んでいく。

② 大木全体に塗り終わったらドライヤーで十分に乾かし、羽管大筆で水を大木全体に塗っていく。

③ グリザイユで前項4-①の薄めの各色を、所々に置いていき、全体に滲ませる。

④ 陽の当たっているところにオレンジ色を塗り、周囲を水筆でぼかしていく。

※大木に塗った色をドライヤーで十分に乾かしてから、

⑤ 先に施していたマスキングインク全部を、きれいに剥がし取る。

⑥ 大木上部の陽が当たっている部分、樹肌との境をメラミンスポンジで水を付けて擦り、直ぐにティッシュで拭いて整え、境目をぼかしておく。

6. 次回(4月23日(日))の活動予定

今回はドライブラシ技法の習熟活動です。

用意してくるもの

① F8のウォーターフォード水彩紙

未使用水彩紙では2枚、描画済み水彩紙では裏面を使うので4枚

② 腰の強いドライブラシ用の小筆を何本か

◇第93回活動:2017年4月23日(月) 午後1時から ヌエック207室

◇宿題として各自仕上げてきた『冬のひかり』を黑板上に並べ、内ちゃん先生の画評を受けた。

先生は「描き方のポイントを理解された作品です。良いです」とのお褒めの言葉に、みんなが笑顔になった。



◇昨年3月8日(火)活動日に配られた、ドライブラシ用筆「Aquarelliste」2本(2号、4号)を用意する。

◇管部分をドライヤーで温めてから、ラジオペンチで湾曲させて、使い勝手を良くする。

◇内ちゃん先生は、ホームセンターのペンキ・塗料売り場にある水性・油性溶剤用小筆を使用されている。

(株)ハンディ・クラウン製のRound(丸筆)4号/¥228、8号/¥268(同売り場にはLiner(細筆)もあった)

今日の活動は「ドライブラシ技法」の練習です。普通に使えるようになるために…

1. 杉の木など枝葉が下向きに見える樹木

① ウォーターフォード水彩紙を用意し、水溶きしたサップグリーンをドライブラシ用小筆に取る。

② 穂先をティッシュにチョンと付けて余分な絵の具を取ってから、柄の後ろの方を軽く持ち、描くところの手前に小指で触れながら、穂先の腹を紙面に軽く付けて、“ハ”の字状に手首を軽く振るように擦って色を付けていく。

③ 右側へ描くときは、手を描くところの遠めにおき、小指を軽く紙面に触れながら、手首を手前に降りながら穂先の腹を紙面に軽く付けて、“ハ”の字状に擦って色を付けていく。

2. 広葉樹など枝葉が周囲に広がって見える樹木

① ドライブラシ用小筆を中央部から外側に揺らし、擦り上げて色を付けていく。

3. 葉っぱを描く練習

① 2号か4号の細筆で、細い枝をスーッと描いていく。

② サップグリーンを小筆に取り、穂先で“ハ”の字を描く要領で、チョンチョンと葉っぱを描いていく。

4. ドライブラシで擦って色付けした後に、水筆で少し周囲にぼかしていく。

5. 配布されたレジュメ「ドライブラシで多用する風景」の中から、“2. サンゴの岩”を描いてみる。

① 暗い影色をつくる。

インダンスレンブルーとバンダイキブラウンを混色する。

② 重なっている岩と岩の間の暗い影を、水彩色鉛筆「ダークインディゴ」で描いていく。

自分は水彩色鉛筆を持ってきてなかったもので、暗い影色を小筆に取り、手本を見ながら下側の岩面を描くように塗っていく。

③ ドライブラシ用小筆で、重なっている上部岩の下側陰部を擦るように描いていく。

④ 影色をドライブラシ用小筆に取り、手本を見ながら岩肌のゴツゴツ感や影を擦りながら色を付けていく。

⑤ サップグリーンを小筆に取り、草などをチョンチョンと描いていく。

6. 樹木の先端部分を描いていく。

- ① ドライブブラシ用小筆にサップグリーン(又はバートシエンナー)を取り、穂先の先端で上方へ軽く揺らしながら、淡く色をおいていく。
- ② ドライブブラシ用小筆にサップグリーンを取り、下側に穂の腹を置き、上に筆を擦り上げていくと、“草薺”を表現できる。
- ③ 焦げ茶系で擦るように描けば、砂利道や浜辺の砂地、枯れたヤブなどが描ける。

7. 次回(5月9日(日))の活動予定

次回の活動から3回にかけて、課題写真『昭和記念公園を歩く』を描いていきます。

今回は、右端の広葉樹と下の垂木(?)の崖などを描いていきます。

用意すること

- ① 配布されたB4サイズの課題写真2枚を、貼り合せ印で2枚を貼り合わせ、プラボードに四角をテープで留めて手本台とし、16等分の縦横線を白線で引いておく。
- ② F8のウォーターフォード水彩紙を水張りし、課題写真を出来るだけ薄くデッサンする。
- ③ ドライブブラシ用小筆を忘れずに。